2 ドイツの貿易黒字と EU ジレンマ
～EUの成長地域は“黄金のライン”から“青きドナウ”へ～

大木　博巳　*Hiromi Oki*
（一財）国際貿易投資研究所　研究主幹

要約

EUでは、ユーロ導入により、加盟国間で経済の収斂が期待されたが、一人当たりGDPを比較すると加盟国間の格差が拡大している。この一因として指摘されているのが、ユーロとドイツの経常収支黒字の拡大である。

ドイツは輸出主導型成長を強化している。EU域内貿易では中東欧との生産分業を深化させ、域外貿易では機械産業の輸出が拡大している。こうした輸出の好調に支えられてドイツの経常収支黒字幅は、対GDP比で8%（2015年）を超えている。

ドイツの経常収支黒字は、近隣の経常収支赤字国に資本を供給する役割を果たしてきたが、リーマン・ショック後には、ドイツに資本が還流してデフォルト懸念が起きた。EUにおける経常収支赤字国は、為替レートによる調整ができないため、財政緊縮などの引き締め策で対応した結果、景気を悪化させた。

フランスのエマニュエル・マクロン大統領はEUにおける「財政同盟」の設立要請している。これは、ドイツに経常収支赤字国の財政負担を一部肩代わりしてもらうことで、他の欧州諸国の緊縮財政を事実上緩和させる狙いがある。

この提案に対して、メルケル首相をはじめとして質素なドイツ国民は何の魅力も感じていないという。そこで、可能性として指摘されているのは、ユーロ圏はドイツを筆頭とする強い通貨圏とフランスなどの弱い通貨圏とに

http://www.iti.or.jp/

分裂することである 。

ドイツは、欧州のユーロ経済圏であるライン経済圏の中核国である。同時に非ユーロ経済圏である中東欧のドナウ経済圏と生産分業体制を構築している。両方の経済圏に強固な足場を築いているドイツ経済は、中長期的には、ドナウ経済圏が成長の新たなフロンティアとなろう。

1. 経済格差が拡大するEU

経済規模が中小規模の国家の集まりである欧州では、経済統合を通じて規模の経済を創出することで経済発展を遂げてきた。欧州の経済統合は、ドイツ、フランス、イタリア、ベネルクス3国のライン川の沿岸国にイタリアを加えた6カ国（原加盟国）から始まり、70年代に英国など3カ国、80年代にはスペインなど3カ国、90年代にはオーストリアなど3カ国、そして2000年代には中東欧など13カ国が加盟して2015年で加盟国が28国に拡大した。他方、市場の統一では、関税同盟の結成（1962年）、モノ、ヒト、カネの自由化（1991年）を完成させて、次に共通通貨の導入（1999年）、ユーロ紙幣・コインの流通（2002）へと経済同盟、通貨統合を実現させている。

加盟国の拡大と経済統合の深化により、EUは世界最大の共通市場を形成して、加盟国は安定した経済成長を実現している。しかし、リーマン・ショック後の中東欧の経済危機や南欧諸国の債務危機によって、EU経済では、当初の予想とは違ったことが起きた。EU経済が、ユーロ導入により、収斂すると思われていたのが、EU加盟国の間で経済格差が拡大していることである[注1]。

生活水準の指標ともいうべき1人当たり国内総生産（GDP）は、1990年には、ドイツとフランス、イタリアは同じような水準で並び、フランスはドイツを上回っていた（表2）。しかし、2015年には、ドイツはフランスよりかなり豊かになり、フランス、イタリアは落ち込んでいる。フランスの1人当たりGDPは、1990年当時のEU平均比136.5％から2015年には116.8％、イタリアは124.9％から93.3％にまで低下してEU平均を下回った。スペインやギリ

http://www.iti.or.jp/

表１　EU の経済成長率

（単位：%）

EU 加盟年	国名	平均伸び率 1960-1970	1970-1980	1980-1990	1990-2000	2000-2010	2010-2015	前年伸び率（2009年以降） 2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
1952	フランス	5.7	3.2	2.5	2.1	1.2	0.9	-2.9	2.0	2.1	0.2	0.6	0.6	1.3
1952	ドイツ	4.4	2.7	2.2	2.8	0.9	1.6	-5.6	4.1	3.7	0.5	0.5	1.6	1.7
1952	イタリア	-	3.6	2.3	1.9	0.3	-0.6	-5.5	1.7	0.6	-2.8	-1.7	0.1	0.8
1952	ベルギー	4.9	3.3	2.0	2.3	1.5	1.3	-2.6	2.5	1.6	0.1	0.3	2.9	1.5
1952	ルクセンブルグ	3.5	2.6	5.0	6.5	2.8	2.9	-5.4	5.8	2.0	0.0	4.2	4.7	3.5
1952	オランダ	5.7	2.8	2.1	3.2	1.3	0.8	-3.8	1.4	1.7	-1.1	-0.2	1.4	2.0
1973	デンマーク	-	1.9	1.5	2.7	0.8	1.2	-4.9	1.9	1.3	0.2	0.9	1.7	1.6
1973	アイルランド	4.3	4.5	3.9	7.2	3.0	6.5	-4.6	2.0	-0.0	-1.1	1.1	8.5	26.3
1973	英国	3.1	2.1	2.9	2.4	1.6	2.0	-4.2	1.5	1.5	1.3	1.9	3.1	2.2
1981	ギリシャ	7.6	4.6	0.7	2.3	1.8	-4.0	-4.3	-5.5	-9.1	-7.3	-3.2	0.4	-0.2
1986	ポルトガル	-	-	3.6	3.1	0.7	-0.9	-3.0	1.9	-1.8	-4.0	-1.1	0.9	1.6
1986	スペイン	5.0	3.5	2.9	3.0	2.2	-0.2	-3.6	0.0	-1.0	-2.9	-1.7	1.4	3.2
1995	オーストリア	-	3.7	2.2	2.4	1.5	1.1	-3.8	1.9	2.8	0.7	0.1	0.6	1.0
1995	フィンランド	4.8	3.7	3.0	2.1	1.7	-0.0	-8.3	3.0	2.6	-1.4	-0.8	-0.6	0.3
1995	スウェーデン	4.6	2.0	2.2	2.3	2.1	2.1	-5.2	6.0	2.7	-0.3	1.2	2.6	4.1
2004	ハンガリー	-	5.0	1.8	0.3	2.0	1.9	-6.6	0.7	1.7	-1.6	2.1	4.0	3.1
2004	スロベニア	-	-	-	1.9	2.7	0.4	-7.8	1.2	0.6	-2.7	-1.1	3.1	2.3
2004	ポーランド	-	-	-0.1	4.7	3.9	3.0	1.6	3.9	5.0	1.8	1.7	3.4	-
2004	チェコ	-	-	-	-	3.2	1.6	-4.8	2.3	2.0	-0.8	-0.5	2.7	4.5
2004	スロバキア	-	-	-	-	4.9	2.5	-5.0	5.0	2.8	1.7	1.5	2.6	3.8
2004	エストニア	-	-	-	-	3.9	3.5	-14.3	2.3	7.6	4.3	1.4	2.8	1.4
2004	ラトビア	-	-	-	-3.5	4.0	3.3	-14.2	-2.9	5.0	4.8	4.2	-0.2	2.7
2004	リトアニア	-	-	-	-3.2	4.3	3.7	-14.8	1.6	6.0	3.8	3.5	3.0	2.2
2004	キプロス	7.1	3.6	6.3	4.5	2.7	-1.8	-1.8	1.3	0.3	-3.2	-6.0	-1.5	1.7
2004	マルタ	4.9	10.5	3.9	5.0	2.0	4.8	-2.5	3.5	1.4	2.6	4.5	8.3	7.4
2007	ブルガリア	-	-	-	-	4.4	1.5	-4.2	0.1	1.6	0.2	1.3	1.5	3.0
2007	ルーマニア	-	-	0.7	-1.3	4.3	2.4	-7.1	-0.8	1.1	0.6	3.5	3.1	3.9
2013	クロアチア	-	-	-	-1.7	2.5	-0.5	-7.4	-1.7	-0.3	-2.2	-1.1	-0.5	1.6
―	米国	4.3	3.2	3.3	3.5	1.6	2.1	-2.8	2.5	1.6	2.2	1.7	2.4	2.6
―	日本	8.9	4.6	4.6	1.4	0.6	1.0	-5.4	4.2	-0.1	1.5	2.0	0.3	1.2

注：網みかけ部分は（ポーランド）は、2015 年の数値がないため、2010-2014 年の伸び率。
資料：IMF ; International Financial Statistics（IFS）

シアは、1990年と比べて微減、25年前の水準にとどまっている。南欧が停滞している一方で、中東欧諸国の1人当たりGDPは着実に向上している。だが、EU平均水準と比べて4割程度と依然と水準は低い。

経済格差の拡大は、リーマン・ショック後に起きている。2000年と2010年の一人当たりGDP水準を比較すると中東欧、南欧、北欧の諸国は向上、フランス、ドイツ、イタリア、英国は低下、特に英国が激しく落ち込んでいる。これが、リーマン・ショック後の2010年と2015年とでは、一人当たりGDPの水準は、英国とドイツが改善する一方で、フランス、イタリア、スペインは低下、特にイタリア、スペインの落込みが大きい。西欧よりも高い成長率を維持し、EU先進国へのキャッチアップが急速に進んでいた中東欧は、全体では横ばい。成長鈍化により、西欧へのキャッチアップ過程に歯止

http://www.iti.or.jp/

めがかかっている。

表 2　EU 各国の一人当たり GDP

国名	一人当たり GDP（ドル）					（EU=100）				
	1980	1990	2000	2010	2015	1980	1990	2000	2010	2015
EU	8,786	16,561	18,377	33,978	32,192	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
原加盟国（6）	11,162	21,023	22,996	41,615	37,672	127.0	126.9	125.1	122.5	117.0
フランス	13,112	22,600	23,318	42,249	37,613	149.2	136.5	126.9	124.3	116.8
ドイツ	11,070	20,174	24,009	42,641	41,197	126.0	121.8	130.6	125.5	128.0
イタリア	8,576	20,691	20,116	35,969	30,032	97.6	124.9	109.5	105.9	93.3
ベルギー	12,596	20,229	23,303	44,691	40,521	143.4	122.1	126.8	131.5	125.9
ルクセンブルグ	17,841	33,369	49,396	105,588	100,943	203.1	201.5	268.8	310.8	313.6
オランダ	13,394	21,002	25,996	50,433	44,323	152.4	126.8	141.5	148.4	137.7
1973 年加盟国（3）	10,692	20,777	27,963	40,822	45,715	121.7	125.5	152.2	120.1	142.0
デンマーク	13,889	26,925	30,805	58,174	53,235	158.1	162.6	167.6	171.2	165.4
アイルランド	6,245	13,605	26,079	48,439	60,899	71.1	82.2	141.9	142.6	189.2
英国	10,672	20,668	27,828	38,738	43,976	121.5	124.8	151.4	114.0	136.6
1980-90 年代加盟国（6）	7,625	15,855	17,097	33,929	29,409	86.8	95.7	93.0	99.9	91.4
スペイン	6,113	13,650	14,725	30,803	25,718	69.6	82.4	80.1	90.7	79.9
ポルトガル	3,335	7,941	11,536	22,581	19,226	38.0	47.9	62.8	66.5	59.7
ギリシャ	5,903	9,681	12,268	26,974	17,955	67.2	58.5	66.8	79.4	55.8
オーストリア	10,709	21,778	24,588	46,758	43,749	121.9	131.5	133.8	137.6	135.9
フィンランド	11,262	28,509	24,349	46,395	42,485	128.2	172.2	132.5	136.5	132.0
スウェーデン	16,613	29,793	29,251	51,867	50,319	189.1	179.9	159.2	152.6	156.3
2004 年以降加盟国（中・東欧 13）	1,954	1,970	3,953	12,719	12,536	22.2	11.9	21.5	37.4	38.9
ポーランド	1,592	1,626	4,476	12,602	12,552	18.1	9.8	24.4	37.1	39.0
チェコ	-	-	5,981	19,787	17,570	-	-	32.5	58.2	54.6
スロベニア	-	-	10,285	23,499	20,746	-	-	56.0	69.2	64.4
クロアチア	-	-	4,970	13,505	11,578	-	-	27.0	39.7	36.0
スロバキア	-	-	3,832	16,636	16,106	-	-	20.9	49.0	50.0
ブルガリア	2,818	2,267	1,614	6,744	7,017	32.1	13.7	8.8	19.8	21.8
ハンガリー	2,145	3,303	4,618	13,008	12,344	24.4	19.9	25.1	38.3	38.3
エストニア	-	-	4,073	14,657	17,115	-	-	22.2	43.1	53.2
ラトビア	-	-	3,337	11,225	13,615	-	-	18.2	33.0	42.3
リトアニア	-	-	3,297	12,012	14,259	-	-	17.9	35.4	44.3
マルタ	-	-	10,434	21,152	23,993	-	-	56.8	62.3	74.5
キプロス	4,546	10,368	14,475	31,267	23,105	51.7	62.6	78.8	92.0	71.8
ルーマニア	2,065	1,652	1,670	8,277	8,934	23.5	10.0	9.1	24.4	27.8

資料：IMF:World Economic Outlook Database（weo）

http://www.iti.or.jp/

EUの経済格差の要因の一つとして指摘されているのが、単一通貨ユーロの導入とドイツの貿易経常収支黒字である。

貿易・経常収支黒字を拡大させているドイツとユーロ参加国との間で貿易不均衡が生じた場合、ユーロ導入以前では、為替レートの変動による調整機能が働いていた。しかし、ユーロ導入後ではドイツの貿易黒字削減は、近隣の赤字国が緊縮策による輸入抑制、賃金引き下げ等により貿易赤字の是正を負担するようになった。その結果、周辺赤字国は低成長に陥っているというEUジレンマである。以下では、ドイツの貿易・経常収支黒字を軸にして、EU統合の再構築について考えてみる。

2. 輸出主導型経済成長を強めるドイツ

EUの経済成長の基本は、輸出主導型成長である。EU加盟国いずれも、GDPに占める貿易の比率（輸出・輸入依存度）は高い。EU全体で2015年に33%、内訳は域内輸出が20.8%、域外輸出が12.2%と域内輸出依存度が高く、EU市場が輸出の基盤となっている。1990年では、域内輸出が13.8%、域外輸出が6.7%であった。趨勢的に依存度は上昇している。ただし、リーマン・ショック後の2010年と2015年を比較すると、EU域外輸出依存度が高まっている。

個別にみると、ドイツの輸出依存度は、2015年で域内が22.8%、域内が16.6%、合計して39.4%とGDPの4割近くを占めている。1990年では25.7%であったから、14%ポイントも拡大している。特に域外輸出依存度がリーマン・ショック後に高まり、2000年の9.9%から2015年に16.6%と6.7%ポイントも拡大している。

また、EUの輸入依存度20.3%（2015年）のうち、ドイツは1990年の3.4%から2015年には4.6%に拡大、フランスはいずれも1.9%と同じ水準に留まっている。輸入面でもドイツの存在感が高まっている。

http://www.iti.or.jp/

表３　EU の輸出・輸入依存度（対 GDP 比）

a）EU各国のGDPに占める輸出比率

国名	輸出 /GDP 比率（%）															
	EU 域内				ドイツ				フランス				EU 域外			
	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015
EU 計	13.8	18.7	19.9	20.8	2.8	3.8	4.0	4.3	2.2	2.6	2.6	2.5	6.7	8.8	10.6	12.2
ドイツ	16.7	18.3	22.2	22.8	-	-	-	-	3.3	3.2	3.5	3.4	9.0	9.9	14.6	16.6
フランス	10.8	15.4	12.0	12.3	2.9	3.7	3.2	3.3	-	-	-	-	5.8	8.4	7.7	8.6
ベネルクス	37.8	50.6	55.0	57.7	11.7	14.1	16.6	16.6	7.2	8.9	8.9	8.9	9.2	13.0	17.7	20.2
オランダ	33.9	45.7	53.0	57.2	11.7	14.8	17.7	18.6	4.6	6.0	6.3	6.4	7.7	10.4	15.6	18.7
英国	9.1	10.2	8.8	7.1	2.0	2.1	1.7	1.6	1.6	1.7	1.2	0.9	6.5	7.2	8.3	8.9
アイルランド	38.8	47.7	30.7	23.2	5.8	8.7	3.5	2.8	5.2	5.9	2.7	1.9	10.7	29.5	22.5	20.5
北欧	13.6	21.0	18.0	17.0	3.4	4.5	3.7	3.9	1.3	1.7	1.4	1.1	7.6	12.4	12.6	11.7
バルト３	-	27.6	33.4	36.9	-	4.5	4.3	3.7	-	0.9	1.4	1.2	-	6.5	18.5	18.5
南欧	9.0	13.0	11.8	14.2	2.4	2.8	2.3	2.8	2.3	2.8	2.6	2.9	4.3	6.7	7.2	9.8
イタリア	9.4	13.0	12.2	13.7	2.8	3.2	2.7	3.1	2.4	2.7	2.4	2.6	5.1	7.9	8.8	11.3
スペイン	7.5	13.9	12.1	15.2	1.4	2.4	1.9	2.6	2.2	3.7	3.3	3.7	2.9	5.4	5.7	8.5
中・東欧	14.2	26.5	34.3	40.5	6.8	10.8	11.5	13.8	0.9	1.6	2.5	2.6	8.4	6.7	9.8	11.5

注：計算に使用した GDP は、WEO の名目 GDP（ドル建て）。
資料：輸出・・・IMF; Direction of Trade Statistics（DOT）
　　GDP・・・IMF; World Economic Outlook Database（WEO）

b）EU各国のGDPに占める輸入比率

国名	輸入 /GDP 比率（%）															
	EU 域内				ドイツ				フランス				EU 域外			
	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015	1990	2000	2010	2015
EU 計	13.7	17.8	19.3	20.3	3.4	3.9	4.4	4.6	1.9	2.2	1.9	1.9	7.7	10.4	12.0	11.8
ドイツ	13.4	16.0	19.5	20.5	-	-	-	-	2.6	2.4	2.4	2.4	8.4	9.3	11.3	10.7
フランス	11.6	16.5	15.8	16.2	3.5	4.6	4.4	4.6	-	-	-	-	6.7	8.1	7.3	7.5
ベネルクス	33.4	37.1	38.6	38.6	11.1	10.0	10.8	10.2	5.4	5.2	4.8	4.5	12.6	23.1	28.9	33.6
オランダ	26.7	27.9	28.7	31.3	9.5	8.6	9.5	10.1	3.1	2.8	2.3	2.6	12.6	24.7	32.5	37.0
英国	11.0	10.5	11.6	11.7	3.0	2.6	2.9	3.2	1.8	1.6	1.4	1.3	7.9	10.7	12.6	10.2
アイルランド	30.5	29.6	18.8	17.8	3.6	3.1	1.9	2.5	2.0	2.3	2.3	3.0	12.9	21.4	9.8	9.2
北欧	12.9	18.4	19.1	19.5	4.2	4.8	5.1	5.1	1.0	1.4	1.1	1.0	7.2	9.3	9.3	8.2
バルト３	-	32.6	39.6	46.6	-	6.7	6.4	7.1	-	1.6	1.5	1.5	-	17.5	19.2	16.2
南欧	10.9	15.3	13.7	14.9	3.2	3.8	3.4	3.6	2.3	3.1	2.2	2.3	6.0	8.3	9.8	9.7
イタリア	9.8	12.8	12.6	13.2	3.3	3.7	3.7	3.5	2.2	2.4	2.0	2.0	5.7	8.0	10.2	9.3
スペイン	10.4	17.7	13.5	15.9	2.7	4.0	2.9	3.8	2.4	4.7	2.7	3.1	6.0	8.4	9.3	10.3
中・東欧	15.8	29.1	33.6	38.6	8.6	12.0	13.0	14.4	0.9	2.0	1.8	1.9	9.3	10.7	12.9	13.0

注：計算に使用した GDP は、WEO の名目 GDP（ドル建て）。
資料：輸入・・・IMF; Direction of Trade Statistics（DOT）
　　GDP・・・IMF; World Economic Outlook Database（WEO）

http://www.iti.or.jp/

他方、フランスの輸出依存度は、2015年で20.9%とドイツの約半分にとどまっている。このうち域内輸出依存度は16.2%、2000年の16.5%と比べてほぼ横ばい。イタリアの輸出依存度は2015年でフランスより高い25.0%、フランスと比べて域外輸出依存度が高まっている。

ドイツとフランス、イタリアの輸出依存度を1990年と2015年の2時点で比較すると、この間、ドイツの輸出依存度は約15%ポイント、フランスは5%ポイント、イタリアは10%ポイントそれぞれ拡大している。この中では、フランスの輸出依存度が拡大しておらず、ドイツほど経済成長に輸出を取り込むことができていない。特に、EU域内貿易において、成長地域の中東欧をドイツほど取り込でいないことがドイツとフランスの格差となっている。

中東欧の輸出依存度は、EU加盟前の2000年では33.2%から、2015年には52.0%へと急拡大している。内訳は、域内が40.5%、域外が11.5%と、EU市場に大きく依存している。中東欧の域内輸出依存度を詳細にみると、対ドイツ輸出が高まっている。中東欧のドイツ輸出依存度は2000年の10.8%から2015年で13.8%に上昇している。中東欧のフランス輸出依存度は、2015年でわずか2.6%である。リーマン・ショック後でも中東欧のEU域内輸出・輸入依存度ともに上昇している。

一方、南欧の輸出依存度は2015年で24.0%、域内が14.2%、域外が9.8%である。2000年と比べて南欧の域内輸出依存度は1.2%ポイントの増加にとどまっており、EU域内輸出による成長の恩恵が届いていない。南欧では輸出競争力の改善がまだ不十分であることを示している。

なお、EUの中で、輸出依存度が域内よりは域外の方が高い国が英国である。EU域内貿易の統合が、それほど進んでいないことを示すものであろう。

輸入依存度（対GDP比）でも、中東欧が2000年の29.1%から38.6%に拡大、ドイツも16.0%から20.5%に上昇している。フランスは横這い、南欧ではスペインが減少している。

輸出主導型成長を享受しているのは、ドイツと中東欧諸国である。それはEU域内貿易拡大に対する増加寄与率で鮮明に出ている。

http://www.iti.or.jp/

表 4　EU28 か国の貿易（輸出）増加寄与率（加盟年代別）

（単位：%）

国名（国数）	① 1990-2000													
	EU 域内	フランス	ドイツ	英国	北欧	南欧	中・東欧	EU 域外	米国	日本	新興国	中国	インド	世界計
EU	69.1	7.1	13.5	7.8	4.0	12.9	13.1	30.9	12.2	1.1	8.2	1.7	0.5	100.0
原加盟国（6）	37.0	3.7	5.5	5.2	1.9	7.6	8.2	17.2	7.1	0.4	5.3	1.2	0.3	54.3
フランス	7.8	-	1.5	1.2	0.4	2.7	1.0	4.5	1.6	0.1	1.6	0.2	-0.0	12.3
ドイツ	9.9	1.1	-	1.2	0.6	1.8	4.5	5.3	3.0	0.1	1.4	0.7	0.0	15.2
イタリア	4.2	0.3	0.4	0.5	0.1	1.0	1.5	3.3	1.2	0.0	1.1	0.1	0.0	7.5
1973 年加盟国（3）	10.7	1.3	2.1	1.0	0.7	1.5	0.8	7.5	3.6	0.4	1.1	0.2	0.2	18.2
英国	6.3	0.8	1.1	-	0.3	1.0	0.5	4.4	2.3	0.1	0.7	0.1	0.1	10.7
1980-90 年代加盟国（6）	11.0	1.5	2.0	1.2	0.8	2.5	1.8	5.0	1.1	0.2	1.6	0.4	0.0	16.1
スペイン	4.6	1.1	0.7	0.5	0.1	1.3	0.4	1.7	0.2	0.1	0.6	0.0	0.0	6.4
2004 年以降加盟国（中・東欧 13）	10.3	0.6	3.9	0.5	0.5	1.3	2.3	1.2	0.4	0.0	0.2	-0.0	0.0	11.5
ハンガリー	2.0	0.1	0.9	0.1	0.0	0.2	0.4	-0.1	0.1	0.0	-0.1	-0.0	-0.0	2.0

※新興国：中国、CIS、ASEAN10、サブサハラ、中南米、南西アジアの合計

（単位：%）

国名（国数）	② 2000-2015													
	EU 域内	フランス	ドイツ	英国	北欧	南欧	中・東欧	EU 域外	米国	中国	日本	新興国	インド	世界計
EU	59.0	6.1	12.4	5.4	3.4	6.8	15.1	41.0	6.6	5.6	0.7	12.6	1.0	100.0
原加盟国（6）	33.5	4.1	5.6	3.8	1.8	3.5	8.5	25.3	4.0	3.9	0.5	7.7	0.7	58.8
フランス	2.9	-	1.0	0.2	0.1	0.5	0.6	3.2	0.3	0.6	0.1	1.1	0.1	6.1
ドイツ	14.0	1.8	-	1.8	0.9	1.5	5.2	12.4	2.4	2.4	0.2	3.4	0.3	26.4
イタリア	3.4	0.6	0.7	0.3	0.1	0.3	1.1	3.9	0.5	0.3	0.1	1.1	0.1	7.4
1973 年加盟国（3）	2.6	-0.0	0.7	0.1	0.2	0.2	0.5	6.4	1.5	1.0	0.1	1.1	0.1	9.1
英国	1.3	-0.0	0.4	-	0.0	0.0	0.3	4.7	0.8	0.9	0.0	0.8	0.1	6.0
1980-90 年代加盟国（6）	7.5	1.0	1.7	0.5	0.6	1.3	1.5	5.1	0.6	0.5	0.1	1.6	0.1	12.5
スペイン	3.3	0.7	0.6	0.4	0.1	0.7	0.5	2.4	0.2	0.1	0.1	0.7	0.0	5.7
2004 年以降加盟国（中・東欧 13）	15.3	1.0	4.5	1.0	0.8	1.7	4.6	4.3	0.4	0.3	0.1	2.2	0.1	19.6
ハンガリー	1.9	0.1	0.6	0.1	0.1	0.2	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	2.4

※新興国：ロシア、CIS、ASEAN10、サブサハラ、中南米、南西アジアの合計。

http://www.iti.or.jp/

表4はEUの輸出拡大に対する国地域別（EU加盟国年代別）増加寄与率である。

特徴は、第1に、EUの輸出拡大にとって域外輸出の重要性が高まっていることである。1980年代、1990年代、2000年代（2000年から2015年間）ともに、EUの輸出はEU域内市場がけん引してきているが、域内輸出による増加寄与率は、1980年代の73.4%、90年代の69.1%、2000年代の59.0%へと低下している。

第2は、EU原加盟6カ国のEU域内輸出における寄与率が低下していることである。1980年代では6カ国による寄与率は51.3%（EU域内輸出拡大の7割を占めていた）、90年代では37.0%、2000年代は33.5%（同6割程度）に落ち込んでいる。特にフランス、イタリアが不振、ドイツは堅調で、ドイツは2000年代には域内輸出の寄与率を高めている。

第3は、2000年代にEUに加盟した諸国（中東欧諸国）がEU域内輸出をけん引する地域として台頭していることである。これらの諸国のEU域内輸出拡大に対する寄与率は15.3%とドイツを上回っている。

第4はドイツと中東欧の貿易の相互依存関係が強まっていることである。ドイツの域内輸出拡大に対する中東欧輸出の寄与率は5.2%（ドイツの輸出の4割弱）、同じく中東欧のドイツ輸出では4.5%（同3割）、さらに中東欧間の輸出寄与率は4.6%となっている。2000年から2015年間のEU域内輸出拡大の4分の1はドイツ・中東欧間による貿易である。

3. ドイツの産業別貿易

2000年代のドイツの輸出は極めて良好な結果を出している。EU域内では安定した揺るぎない市場であるフランスやイタリアを抱え、また、EU域内の新たな成長市場である中東欧との貿易が相互に拡大した。それ以上に、好調であったのはEU域外輸出である。

ドイツの主要輸出業の域内・域外輸出比率をみると、2015年で域内輸出が全体の57.1%、2000年の63.8%から低下している。フランスやイタリアの輸出

http://www.iti.or.jp/

比率が低下している一方で中東欧が拡大している（表5）。

業種別には、ドイツの輸出に占めるEU域内輸出の比率は、機械産業を除けば、ほぼ6割以上が域内市場に依存している。機械産業の中では、造船や光学機器（これには医療機器が含まれている）は域内輸出比率を域外輸出比率が上回っている。また車両（HS87主に自動車）や電機（HS85） は、2000年では域内輸出比率が6割であったが、2015年には域内・域外がほぼ半々となり、急速に域外輸出を拡大させている。ドイツの機械産業の輸出が域外志向を強めている中で、唯一EUの中で輸出が伸びている地域が中東欧である。

表５　ドイツの業種別域内・域外輸出比率（当該業種の輸出 =100）

（単位：％）

	EU 域内		フランス		英国		イタリア		中・東欧	
	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015
食糧（01-11、16-24）	79.4	77.3	12.8	9.0	6.9	7.1	12.7	8.3	12.3	19.6
油脂計（12-15）	70.3	74.3	8.8	7.1	5.7	4.8	5.2	3.7	12.5	21.1
化学品（28-40）	59.8	59.4	10.7	7.9	6.6	7.3	7.8	5.6	11.6	14.9
繊維計（50-60）	74.0	65.9	7.4	5.8	5.3	4.3	9.0	6.4	29.7	31.7
縫製品（61-63）	77.4	78.3	9.1	9.9	8.0	6.0	3.3	5.0	24.6	29.0
鉄鋼（72-73）	72.3	69.6	12.0	10.2	5.8	4.8	8.2	6.1	15.6	24.3
その他の原料及び製品（*）	66.5	63.2	10.8	8.0	7.2	6.6	6.9	4.7	17.3	23.0
機械機器（84-91）	61.4	51.1	11.3	8.7	9.1	8.0	7.1	4.2	11.8	14.6
84　一般機械及び部品	58.2	50.9	9.4	7.1	8.1	5.8	6.3	4.3	13.4	17.3
85　電気機器	64.4	56.7	10.0	6.6	9.8	5.3	6.9	4.7	14.4	22.3
86　鉄道	61.8	60.3	7.7	4.1	4.8	11.8	3.0	5.1	21.4	23.0
87　車両及び附属品	63.3	51.0	8.5	6.5	10.0	12.9	9.1	4.4	10.9	11.7
88　航空機	71.3	50.0	50.8	38.6	9.9	4.6	2.3	0.9	0.8	1.4
89　船舶及び浮き構造物	44.2	18.1	0.8	0.8	22.0	3.0	0.6	0.4	1.7	0.6
90　光学機器	53.6	43.3	9.6	6.2	6.9	5.3	6.8	4.8	9.1	10.9
91　時計及びその部分品	45.2	58.9	7.3	21.8	5.0	7.3	6.8	3.8	11.1	12.6
雑製品（64-67、92-97）	67.8	70.1	9.4	12.2	6.7	6.9	3.7	4.0	19.4	24.2
総計	63.8	57.1	11.1	8.6	8.2	7.4	7.4	4.8	13.2	16.9

（＊）HS25-27、41-49、68-71、74-83
資料：ドイツ貿易統計

http://www.iti.or.jp/

2015年のドイツの輸出額は7,599億ドル、このうち中東欧向け輸出金額は2,247億ドル、フランスの1,141億ドルのほぼ倍の規模である。中東欧向け輸出の半分は機械機器が占めている。一方、ドイツの輸入額は、2015年で6,761億ドル、このうち中東欧は2,070億ドル、フランスや南欧の輸入額をはるかに上回っている。輸出同様、輸入の半分は機械機器が占めている。

ドイツの業種別貿易は輸出入ともに化学品が最大の品目である。EU域内でプラスチックや医薬品の相互貿易が発達している。次に輸出では自動車、一般機械、電機、輸入では一般機械、自動車と続いている。機械機器（HS84-HS91）を合わせるとEU域内輸出が3,713億ドル、輸入が2,813億ドルとこれも相互貿易が進んでいる。うち最大の貿易品目は輸出、輸入ともに車両である。

ドイツの対EU域内貿易収支は、2015年で838億ドルの黒字である。2000年は409億ドルの黒字であったから、黒字幅は倍増している。特に対英貿易黒字が膨らんでいること、また、対フランス貿易黒字も、2000年の135億ドル

表 6　ドイツの業種別域内輸出・輸入・収支（2000 年、2015 年）

a）輸出

（単位：100 万ドル）

	EU 域内		フランス		英国		中・東欧		南欧		イタリア	
	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015
食糧（01-11、16-24）	19,140	57,231	3,091	6,638	1,665	5,240	2,956	14,477	4,684	10,294	3,058	6,132
油脂計（12-15）	1,258	3,636	158	346	101	235	223	1,030	147	313	92	182
化学品（28-40）	51,010	147,260	9,105	19,663	5,630	18,133	9,909	37,036	11,708	26,132	6,667	13,799
繊維計（50-60）	8,707	8,531	865	747	628	560	3,497	4,099	1,930	1,459	1,060	828
縫製品（61-63）	5,993	14,902	707	1,888	618	1,137	1,908	5,522	620	1,914	258	958
鉄鋼（72-73）	16,222	36,454	2,702	5,351	1,292	2,520	3,505	12,748	3,176	5,204	1,849	3,195
その他の原料及び製品（*）	40,799	91,709	6,648	11,613	4,434	9,640	10,625	33,388	7,213	11,014	4,253	6,796
機械機器（84-91）	191,252	371,339	35,194	63,209	28,463	58,446	36,859	106,266	43,345	62,178	22,141	30,574
84　一般機械及び部品	60,930	115,496	9,893	16,066	8,475	13,199	14,010	39,237	13,508	19,508	6,604	9,645
85　電気機器	43,641	74,466	6,772	8,646	6,646	6,934	9,747	29,336	9,257	12,155	4,643	6,163
86　鉄道	717	2,120	89	143	56	417	248	809	73	266	35	179
87　車両及び附属品	62,371	127,181	8,387	16,223	9,829	32,172	10,698	29,208	16,799	23,074	9,008	11,091
88　航空機	11,194	22,993	7,973	17,732	1,556	2,104	133	638	857	1,397	368	421
89　船舶及び浮き構造物	818	1,032	16	45	408	169	31	36	108	254	11	25
90　光学機器	11,274	26,647	2,015	3,835	1,460	3,279	1,917	6,701	2,659	5,320	1,427	2,960
91　時計及びその部分品	307	1,405	49	520	34	173	75	300	84	203	46	90
雑製品（64-67、92-97）	8,249	22,909	1,140	3,978	819	2,269	2,366	7,928	1,057	2,722	449	1,298
総計	351,026	759,949	61,151	114,155	44,916	98,685	72,841	224,768	75,722	122,066	40,826	64,132

（＊）HS25-27、41-49、68-71、74-83
資料：ドイツ貿易統計

http://www.iti.or.jp/

b）輸入

（単位：100 万ドル）

	EU 域内		フランス		英国		中・東欧		南欧		イタリア	
	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015
食糧（01-11、16-24）	27,387	65,275	4,434	6,522	916	1,665	2,357	11,970	5,878	13,008	3,084	6,697
油脂計（12-15）	1,522	6,699	234	1,056	70	139	209	1,653	158	573	129	391
化学品（28-40）	43,349	128,536	7,246	15,169	5,487	11,143	4,220	21,710	5,492	16,115	3,581	10,031
繊維計（50-60）	6,126	6,374	651	362	357	278	1,026	1,731	2,284	1,769	1,801	1,339
縫製品（61-63）	10,013	15,272	516	922	399	989	4,023	5,212	2,824	2,945	1,741	1,744
鉄鋼（72-73）	14,671	37,488	2,179	4,246	830	1,149	4,091	12,068	2,440	6,682	1,715	4,856
その他の原料及び製品（*）	49,338	106,470	4,564	7,495	5,909	7,796	9,084	26,990	5,805	10,144	4,141	6,611
機械機器（84-91）	125,152	281,356	23,475	41,904	16,728	19,702	27,972	112,218	20,824	36,391	11,230	19,878
84　一般機械及び部品	41,469	83,393	5,087	7,485	5,428	5,534	10,355	35,092	6,576	11,161	4,774	8,271
85　電気機器	31,573	72,001	3,971	6,316	5,262	4,419	7,880	32,995	3,973	6,960	1,834	3,942
86　鉄道	561	1,884	24	68	12	51	404	1,395	84	231	75	96
87　車両及び附属品	35,104	82,681	6,268	8,666	3,214	4,208	8,255	37,450	8,925	15,923	3,909	6,265
88　航空機	10,082	22,237	7,189	16,904	1,935	3,780	107	425	406	501	157	185
89　船舶及び浮き構造物	479	875	20	43	39	25	179	65	189	12	10	7
90　光学機器	5,791	17,674	900	2,125	834	1,653	771	4,706	649	1,540	462	1,085
91　時計及びその部分品	92	612	15	297	5	33	20	90	23	62	9	28
雑製品（64-67、92-97）	11,297	25,560	586	1,321	353	949	4,420	12,727	3,599	4,254	2,539	2,875
総計	310,049	676,138	47,624	79,516	33,808	44,064	59,660	207,097	53,750	92,615	32,572	54,669

（＊）HS25-27、41-49、68-71、74-83
資料：ドイツ貿易統計

c）収支

（単位：100 万ドル）

	EU 域内		フランス		英国		中・東欧		南欧		イタリア	
	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015	2000	2015
食糧（01-11、16-24）	-8,247	-8,045	-1,343	117	749	3,576	599	2,507	-1,195	-2,713	-26	-565
油脂計（12-15）	-264	-3,064	-76	-709	32	96	15	-623	-11	-260	-36	-210
化学品（28-40）	7,660	18,724	1,859	4,495	143	6,990	5,688	15,325	6,216	10,018	3,086	3,768
繊維計（50-60）	2,581	2,157	215	386	271	282	2,471	2,368	-354	-310	-741	-510
縫製品（61-63）	-4,020	-370	191	966	219	148	-2,115	310	-2,205	-1,032	-1,483	-786
鉄鋼（72-73）	1,551	-1,034	523	1,105	462	1,371	-585	680	735	-1,479	134	-1,661
その他の原料及び製品（*）	-8,539	-14,761	2,084	4,117	-1,475	1,844	1,541	6,398	1,409	870	112	185
機械機器（84-91）	66,099	89,983	11,719	21,305	11,734	38,743	8,887	-5,952	22,521	25,787	10,911	10,696
84　一般機械及び部品	19,461	32,103	4,806	8,581	3,047	7,665	3,655	4,145	6,932	8,347	1,830	1,373
85　電気機器	12,068	2,465	2,802	2,330	1,384	2,515	1,867	-3,659	5,284	5,195	2,809	2,221
86　鉄道	156	236	65	75	44	366	-156	-586	-10	35	-41	83
87　車両及び附属品	27,267	44,500	2,119	7,556	6,615	27,964	2,443	-8,241	7,874	7,151	5,099	4,827
88　航空機	1,111	756	784	828	-379	-1,676	26	213	452	896	211	236
89　船舶及び浮き構造物	340	158	-5	2	369	144	-148	-29	-81	242	1	19
90　光学機器	5,482	8,973	1,116	1,709	626	1,625	1,146	1,995	2,010	3,780	965	1,875
91　時計及びその部分品	215	793	34	223	29	140	55	210	61	141	37	62
雑製品（64-67、92-97）	-3,048	-2,651	554	2,657	466	1,321	-2,054	-4,799	-2,542	-1,532	-2,090	-1,577
総計	40,976	83,811	13,527	34,639	11,108	54,621	13,181	17,671	21,972	29,452	8,254	9,462

（＊）HS25-27、41-49、68-71、74-83
中・東欧：ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキア、オーストリア、スロベニア、クロアチア、ブルガリア、ルーマニア
南欧：イタリア、ポルトガル、キプロス、ギリシャ、マルタ、スペイン
資料：ドイツ貿易統計

http://www.iti.or.jp/

から2015年に346億ドルに増えている。他方、対中東欧貿易収支は、176億ドルの黒字で、2000年の131億ドルと比べて小幅増にとどまっている。

最大の黒字部門である機械機器の貿易収支は、2000年の660億ドルから2015年には899億ドルに拡大している。しかし、ドイツは対中東欧機械機器貿易収支は、59億ドルの赤字を計上している。ドイツの機械機器貿易収支が対中東欧に対して赤字となっているのは、自動車貿易収支の赤字（82億ドル）が影響しているためである。

4. ドイツが進める中東欧との生産分業

ドイツの財別貿易データを見ると、ドイツと中東欧の間では、機械産業（電機と自動車）で生産分業体制が進展していることが分かる。ドイツの中間材輸出は2015年で3,608億ドル、このうち中東欧は1,226億ドル、輸入は同じく3,369億ドルに対して中東欧は1,144億ドルである。中間財の輸出入はほぼ同じ規模である。最終財では、輸出が3,484億ドルに対して中東欧は865億ドル、輸入は2,665億ドルのうち中東欧は1,486億ドルと最終財では中東欧に対してドイツは大幅な600億ドル超の輸入超過となっている。ドイツと中東欧の貿易は、中間材の相互取引が進む中、最終財でもドイツは資本財や消費財（完成車）を輸出し、中東欧からも自動車などの消費財を輸入している。

表7は、ドイツの対中東欧財別貿易収支（全産業、電機、車両）である。全産業では、ドイツは、中東欧に対しては部品では赤字、資本財では黒字となっている。これを電機と車両で見ると、電機は部品と消費財で赤字、資本財で黒字となっている。車両は、部品と消費財（完成車）とも赤字である。

国別にみると、2015年でチェコ、スロバキア、ハンガリー、スロベニアに対して赤字、このうちチェコとスロバキアは部品、最終財ともにドイツの赤字となっている。自動車貿易に絞ると、チェコ、ハンガリー、スロバキアに対して赤字、いずれも、部品および消費財（完成車）ともに赤字となっている。赤字幅が最も大きい国はチェコである。

http://www.iti.or.jp/

表 7　ドイツの財別貿易収支（全産業、電機、車両）

a）全産業

（単位：100 万ドル）

	2000			2015								
	EU 域内	中・東欧	世界計	EU 域内	中・東欧	ポーランド	チェコ	ハンガリー	スロベニア	スロバキア	その他	世界計
総額	40,976	13,181	54,730	83,811	17,671	5,234	-6,694	-1,945	-850	-2,589	24,514	279,738
素材	-5,202	-231	-37,370	-19,152	-1,964	-1,031	-1,087	-230	158	60	164	-56,777
中間財	15,880	6,439	33,392	23,942	8,205	5,816	-1,253	562	-711	-1,538	5,330	111,886
加工品	-603	6,062	12,279	11,200	19,217	6,787	1,816	1,735	95	966	7,818	44,564
部品	16,483	377	21,113	12,782	-11,031	-978	-3,070	-1,174	-816	-2,509	-2,484	67,367
最終財	36,401	4,971	54,388	83,054	11,128	47	-3,982	-2,327	-88	-1,093	18,572	233,602
資本財	32,200	7,125	40,823	44,277	11,776	4,661	-1,061	407	85	714	6,971	119,952
消費財	4,328	-2,139	13,427	38,312	-654	-4,705	-2,951	-2,721	-167	-1,813	11,703	112,966

※その他・・・オーストリア、クロアチア、ブルガリア、ルーマニア

b）電機（HS85）

（単位：100 万ドル）

	2000			2015								
	EU 域内	中・東欧	世界計	EU 域内	中・東欧	ポーランド	チェコ	ハンガリー	スロベニア	スロバキア	その他	世界計
総額	19,461	3,655	32,263	32,103	4,145	2,080	-352	-768	-19	-126	3,330	93,341
素材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中間財	4,446	-1,030	7,399	7,938	-2,198	-339	593	-1,401	-187	-478	-386	32,546
加工品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部品	4,446	-1,030	7,399	7,938	-2,198	-339	593	-1,401	-187	-478	-386	32,546
最終財	14,453	4,561	23,086	24,445	6,466	2,341	-752	624	199	329	3,725	57,325
資本財	13,769	4,584	22,333	24,597	7,175	2,944	-587	676	219	368	3,555	57,639
消費財	684	-23	753	-152	-709	-603	-165	-53	-20	-39	170	-314

c）車両（HS87）

（単位：100 万ドル）

	2000			2015								
	EU 域内	中・東欧	世界計	EU 域内	中・東欧	ポーランド	チェコ	ハンガリー	スロベニア	スロバキア	その他	世界計
総額	27,267	2,443	54,840	44,500	-8,241	73	-5,443	-2,587	-735	-2,878	3,328	147,640
素材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中間財	3,175	384	6,058	-1,129	-6,013	-989	-2,400	210	-236	-1,537	-1,062	17,779
加工品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
部品	3,175	384	6,058	-1,129	-6,013	-989	-2,400	210	-236	-1,537	-1,062	17,779
最終財	22,313	-55	45,132	47,315	-1,641	1,148	-2,714	-2,712	-407	-1,289	4,333	129,840
資本財	5,008	639	7,099	9,090	2,900	923	492	304	-121	181	1,121	18,058
消費財	17,305	-694	38,033	38,226	-4,540	225	-3,206	-3,015	-285	-1,470	3,212	111,782

※その他・・・オーストリア、クロアチア、ブルガリア、ルーマニア
資料：ドイツ貿易統計

http://www.iti.or.jp/

中東欧では自動車産業は最も重要な産業で、各国の経済成長を牽引している。中東欧での乗用車の生産台数は329万台（2012年）で、欧州全体（ロシア・CIS含む）の生産台数1,738万台（2012年）の約19％（5台に1台）を占めている。産業生産額に占める自動車産業の比率（2012年）は、チェコ（22％）、ハンガリー（19％）、ルーマニア（15％）、スロバキア（29％）、ポーランド（11％）、スロベニア（12％）である。この内、部品産業の割合は、ルーマニア6割、チェコ・ハンガリー5割、スロベニア・スロバキア4割を占めている。例えば、チェコでは、ボッシュ、コンチネンタル、デンソーを含む世界の150社以上のグローバルサプライヤーが集積しており、チェコのローカルコンテンツ率85％（独は60％、英は30％）と高い。また、バルカンの小国等への部品メーカーの進出にもつながっている。

中東欧の自動車産業を支えるのは、外資系企業である。製造業全体のFDI（ストック）に占める自動車産業の割合は、チェコ27％、ハンガリー20％、スロバキア19％であり、ポーランドとスロベニアを除き、最大のFDI受入れセクターとなっている。ドイツの対外直接投資における自動車・同部品産業の投資残高（2014年末）を見ても、EUでは中東欧に集中している（表8）。

表8　ドイツの対外直接投資（国別・業種別、国際収支（第6版）、ストック、2014年末時点）

（単位：100万ユーロ）

	全産業計	製造業計	化学、化学製品	電気機器	一般機械	自動車及び自動車部品	自動車販売、保守・修理	金融、保険計	持株会社
EU(28)計	394,866	72,269	8,250	9,841	8,034	17,715	11,536	92,333	200,531
フランス	34,338	7,687	985	893	1,203	2,527	1,243	4,547	18,606
英国	109,921	17,692	1,392	2,808	6,405	5,404	1,876	25,836	48,577
南欧	60,839	14,465	1,434	2,717	1,421	5,643	1,847	7,816	32,692
北欧	5,296	1,771	191	113	377	465	280	−77	2,900
中・東欧	108,082	28,438	747	2,063	2,254	15,758	3,287	5,735	61,246
オーストリア	28,768	5,441	181	248	433	2,515	947	431	16,568
スロバキア	7,503	2,104	40	97	90	1,475	149	121	5,006
チェコ	24,709	7,583	68	507	555	4,938	530	778	14,723
ハンガリー	14,078	6,307	114	659	361	4,487	229	234	6,432
ポーランド	25,777	5,610	282	390	579	1,854	772	4,096	13,800
ルーマニア	7,247	1,393	62	162	236	489	660	75	4,717
世界計	957,930	240,084	44,386	30,572	27,058	87,697	18,810	174,083	463,460

注：EU内の地域計は、集計可能な国を合計したもの
※南欧：イタリア、スペイン、ポルトガル
※北欧：デンマーク、スウェーデン

http://www.iti.or.jp/

外資系自動車メーカーは、中東欧を輸出拠点としており、で生産された乗用車の大半はEU 向けに輸出にされている。EU域外向け輸出は、チェコ、ハンガリー、ポーランドは2割弱、自動車産業が目覚ましく成長しているルーマニア、スロバキアは3割弱がEU域外向け輸出である。ドイツの自動車貿易でも中東欧の占める比率は高く、かつ輸出・輸入の双方向で貿易が活発化している。

表９　ドイツの自動車貿易

a）輸出

（単位：10 億ドル）

HS	6 桁品目名	2000										2015									
		EU 域内	仏	英国	南欧	中・東欧	EU 域外	日本	米国	中国	世界計	EU 域内	仏	英国	南欧	中・東欧	EU 域外	日本	米国	中国	世界計
往復動機関																					
870321	1,000 立方 cm 以下	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	2.8	0.2	1.5	0.3	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	3.1
870322	1,000-1,500 立方 cm 以下	2.5	0.4	0.3	0.7	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0	3.0	8.3	1.1	2.8	1.4	0.8	4.8	1.0	0.5	0.4	13.1
870323	1,500-3,000 立方 cm 以下	14.9	1.1	4.8	3.6	1.1	14.6	2.2	6.6	0.1	29.5	8.3	1.0	3.2	0.9	1.0	44.8	2.5	17.9	10.1	53.1
870324	3,000 立方 cm 超	2.2	0.3	0.6	0.7	0.2	10.1	1.3	6.6	0.1	12.4	3.0	0.3	1.0	0.4	0.6	17.5	0.9	9.6	1.0	20.5
ディーゼル																					
870331	1,500 立方 cm 以下	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	5.1	0.7	1.6	1.9	0.3	0.6	0.0	0.0	-	5.7
870332	1,500-2,500 立方 cm 以下	13.4	2.3	1.2	5.1	1.5	0.9	0.0	0.0	0.0	14.3	35.4	4.9	11.1	8.0	4.1	10.3	0.6	0.4	0.1	45.7
870333	2,500 立方 cm 超	1.7	0.3	0.2	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	1.9	9.4	1.3	3.3	1.3	1.9	4.7	0.0	0.6	0.3	14.1
乗用車　計		35.1	4.4	7.2	109	3.2	26.3	3.7	13.2	0.1	61.4	72.6	9.5	24.6	14.3	8.9	83.9	5.1	29.3	11.9	156.6

資料：ドイツ貿易統計

b）輸入

（単位：10 億ドル）

HS	6 桁品目名	2000										2015									
		EU 域内	仏	英国	南欧	中・東欧	EU 域外	日本	米国	中国	世界計	EU 域内	仏	英国	南欧	中・東欧	EU 域外	日本	米国	中国	世界計
往復動機関																					
870321	1,000 立方 cm 以下	0.6	0.2	-	0.4	0.0	0.2	0.2	0.0	-	0.8	1.4	0.1	0.0	0.3	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0	1.8
870322	1,000-1,500 立方 cm 以下	4.0	1.1	0.0	1.2	1.0	0.8	0.6	0.0	0.0	4.7	7.1	0.5	0.2	2.1	3.1	1.3	0.0	0.0	0.0	8.4
870323	1,500-3,000 立方 cm 以下	7.6	1.0	0.7	1.3	1.6	2.9	1.5	0.6	0.0	10.5	8.7	0.3	0.4	1.3	4.0	1.0	0.2	0.5	0.0	9.7
870324	3,000 立方 cm 超	0.7	0.0	0.3	0.1	0.3	0.6	0.0	0.5	-	1.3	1.0	0.0	0.3	0.3	0.2	0.7	0.1	0.5	0.0	1.6
ディーゼル																					
870331	1,500 立方 cm 以下	0.2	0.0	-	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.7	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0	-	1.8
870332	1,500-2,500 立方 cm 以下	4.2	0.7	0.3	1.5	0.6	0.4	0.2	0.0	-	4.6	12.9	1.3	0.9	3.6	3.5	3.6	0.1	2.2	0.0	16.5
870333	2,500 立方 cm 超	0.5	0.0	0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.0	-	0.7	2.1	0.2	0.5	0.2	1.0	3.5	0.1	3.3	-	5.5
乗用車　計		17.8	3.0	1.4	4.6	3.9	5.0	2.6	1.1	0.0	22.8	35.0	2.5	2.4	8.0	13.1	10.6	0.5	6.4	0.0	45.6

資料：ドイツ貿易統計

http://www.iti.or.jp/

5. EUジレンマ

ドイツの貿易黒字は、2015年で域内黒字が888億ドル、域外が2797億ドルと域外黒字が圧倒している。ドイツの貿易黒字は、これまで常に域内黒字が域外黒字を上回っていたが、2010年より域外が域内を上回り逆転している。域内貿易黒字幅は、2%台（対GDP比）で落ち着ており、域内貿易収支は改善しているが、域外貿易黒字は急拡大して黒字が膨れあがっている（図1）。

1999年のユーロ導入以来、ドイツは自国通貨をコントロールできなくなった。ユーロ導入前なら、ドイツマルクを押し上げ、ドイツの貿易黒字を減らすことができた。しかし、ユーロ圏確立以来、ドイツの貿易黒字削減はフランスなどユーロ参加諸国が負担している。ユーロ導入当初に期待されていたことは、貿易不均衡が生じた場合、経常黒字国が経常赤字国の赤字をファイナンスしている間に、経常赤字国が国際競争力の強化に向けた改革を進めることでユーロ参加国間の経常収支不均衡は改善されることであった。すなわち、ユーロ圏の経常赤字国では、通貨安による輸出競争力の改善が期待できないため、さらなる経済構造改革の推進や産業競争力の強化を通じて輸出を拡大し、赤字幅を縮小していく努力が求められた[注2]。

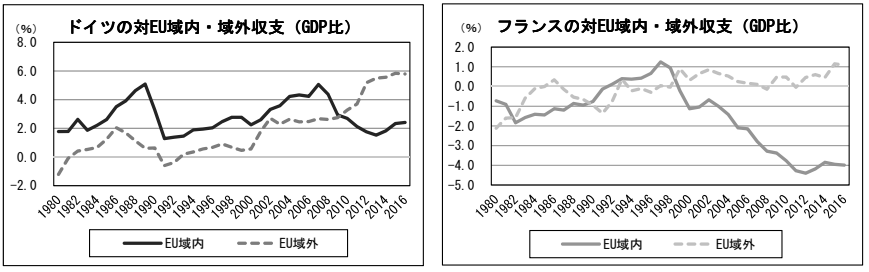
ところが、実際には経常赤字国はユーロ導入により不足資金を外国からの資金調達で容易にファイナンスできるようになったため、逆に構造改革へのインセンティブが薄れる結果となった。逆に構造改革を進めたのはドイツである。ドイツは労働市場改革によって国内賃金を抑え、2007年には失業保険料率を引き下げた。これは付加価値税（VAT）の税率引き上げを財源に行われたが、輸出はVATを免除されているので国際競争力には影響しなかった。

貿易・経常収支赤字国は、構造改革が進まない中で、緊縮財政によって賃金や物価を押し下げて競争力の回復に努めたが、逆に失業率が上昇するなど、低迷から抜け出せなくなる悪循環に陥った。一方で、欧州中央銀行（ECB）は低金利政策を余儀なくされる中、ユーロ安が進み、ユーロ圏の対域外貿易黒字は増加した。ドイツの域外貿易黒字は、2010年から域内黒字

http://www.iti.or.jp/

を抜いて拡大する一方である。フランスの貿易収支は、域内貿易収支の赤字幅が2000年から2010にかけて悪化（対GDP比で－1.0％から－4.0％）、2010年以降は横這いで改善はしていない。他方、域外貿易収支幅は、ドイツのように急拡大はしていないが黒字幅は増えている。

図１　ドイツとフランスの対 EU 域内・域外貿易収支（GDP 比）



似たようなジレンマは、1990年代初めに東西ドイツ統一後のEU経済でも起こっていた。

ドイツでは、90年7月の通貨統合（マルク統一）により旧東独地域向けの消費や投資の需要が急速に高まり、ドイツ国内の供給力を上回ったことから輸入が増大した。このため、周辺諸国では、ドイツ向け輸出の大幅な増加という恩恵を受けた。

しかし、ドイツ統一のユーフォリズ効果が一巡した91年から統一コストが顕現化した。財政赤字の拡大、インフレ圧力が高まり、ドイツは金融引き締めに転じた。ドイツの長短金利の上昇がドイツマルク高となり、これがEMS（欧州通貨制度）の枠組みで（ERM参加国通貨間の基準レートは上下2.5％を許容範囲として、この範囲内に為替変動幅を収めることが義務化されていた。英ポンドとイタリアリラは92年9月以降ERMを離脱）のもとでEC加盟国に金利上昇圧力となって伝播した。EU各国はドイツマルク堅調のもとでEMU/EMSの枠組みに制約され、国内景気の停滞にもかかわらず、引き締め報告で金融政策運営を余儀なくさせられた。これが欧州景気停滞の一因と言われていた。

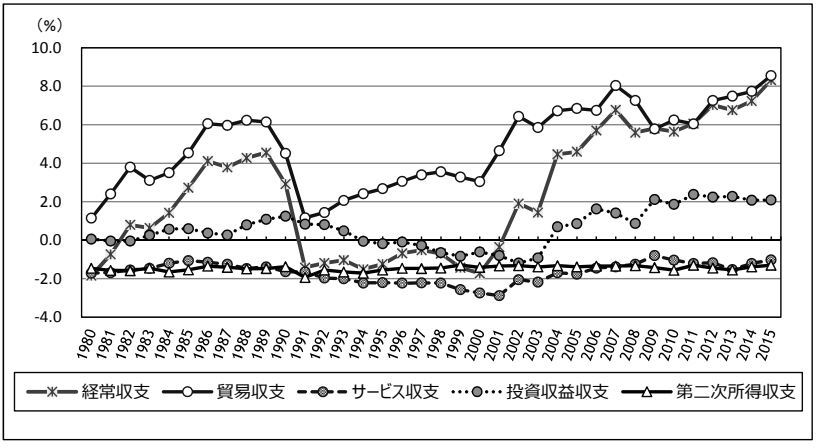
http://www.iti.or.jp/

6. 強固なドイツの経常収支黒字基盤

EUジレンマを回避するには、ドイツの貿易・経常収支不均衡の是正は必須である。ドイツの経常収支黒字幅は、巨額な貿易黒字を背景にして対GDP比で8％を超えている。1980年代のレーガノミクス時代における水準を超えている。世界最大の黒字大国である。

かつて、ドイツは、貿易黒字を上手に還流していた。ドイツ人の海外旅行熱や外国人労働者の本国送金などのサービス貿易収支の赤字とEUへの分担金支払いで相殺してきた[注3]。しかし、最近では、ドイツのサービス貿易収支の赤字幅が改善傾向にある。旅行収支は赤字であるが、その他ビジネスサービス収支が赤字から黒字に転換し、かつ黒字幅を毎年拡大させている。投資収益収支も2009年から直接投資収益の黒字幅が対GDP比で2％を超えるようになり、黒字幅が拡大している。ドイツの投資収益収支の黒字額は、2015年で703億ドルとフランスの250億ドルを大幅に上回っている。ドイツの経常収支黒字を背景にしてドイツからの資本輸出拡大が黒字をもたらしている。貿易収支の黒字に加えてサービス貿易の赤字幅の縮小や投資収益収支も拡大もしており、ドイツの巨額の経常収支の黒字を削減するこは難しい。

図２　ドイツの経常・貿易・サービス収支等（対 GDP 比）



http://www.iti.or.jp/

EUが安定した経済成長の軌道に乗るには、ドイツの経常収支黒字の是正や黒字還元が必要となろう。その視点から以下のような対応が指摘されている。

第1は輸入拡大である。雇用市場の引き締まりに伴い賃金が上昇すれば、個人消費や輸入が増え、いずれ是正される可能性がある。

第2は国内投資を増やして国内の貯蓄を減らすことである。ドイツは元々の家計の貯蓄率が高いことに加えて、労働市場改革の進展により賃金上昇が抑制されたこと、また企業が中東欧などでの投資を加速化させる一方で国内投資を控えたことなどから投資・消費が伸び悩み、国全体で貯蓄超過が拡大した。

第3はEUにおける「財政同盟」の設立である。これは、フランスのエマニュエル・マクロン大統領が要請しているもので、ドイツに経常収支赤字国の財政負担を一部肩代わりしてもらうことで、他の欧州諸国の緊縮財政を事実上緩和させる狙いがある。

マクロン仏大統領は、2017年1月にベルリンのフンボルト大学で行った講演で欧州版ニューディール構想をぶち上げている。具体的には、ユーロ圏の共通予算を組み、投資プログラムに資金を充当するとともに、経済危機に陥った国を支援する提案である[注4]。その言外の意味は、「ドイツの巨額の貿易黒字と財政緊縮策への固執で、他の欧州各国の成長が阻害され、各国への支援が妨げられている」というものであるという。

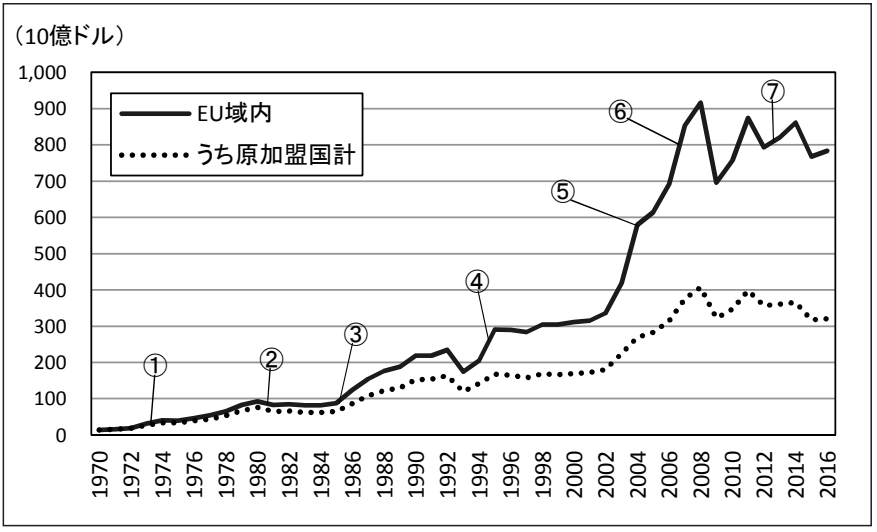
しかし、メルケル首相をはじめとして質素なドイツ国民は、こうした提案に何の魅力も感じていないという。財政移転が可能なせいで、新たなモラルハザード（倫理の欠如）を懸念している。そこで、可能性として指摘されているのは、ユーロ圏はドイツを筆頭とする強い通貨圏とフランスなどの弱い通貨圏とに分裂することである[注5]。

EUの域内貿易は、成長地域が中東欧にシフトしている。ドイツのEU域内輸出を見ても、EU原加盟国6カ国向け輸出は、すでに1980年代央から伸び悩み始めており、2006年以降からは横ばいで推移し停滞している（図3）。ドイツのEU域内輸出は、1990年代後半から、EU新規加盟国向けにシフトし、

http://www.iti.or.jp/

中東欧がEUに加盟してからはその傾向が加速化している。

図 3　ドイツの EU 域内輸出額の推移



①：英国、アイルランド、デンマーク加盟、②：ギリシャ加盟、③：スペイン、ポルトガル加盟、④：オーストリア、スウェーデン、フィンランド加盟、⑤：キプロス、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マルタ、ポーランド、スロバキア、スロベニア加盟、⑥：ブルガリア、ルーマニア加盟、⑦：クロアチア加盟

7. “黄金のライン”から“青きドウナ”へ

EU原加盟国6カ国は、英独を基軸としたライン川の沿岸国にイタリアを加えたEU統合を推進する中核国である。これら中核国のEU経済に占める比重は後退している。EUのGDPに占めるシェアをみると、1980年の62.1％から2015年には54.4％に低下している。他方、2000年代において、EUで成長著しい地域は、中東欧である。

ドイツは、EU中核国及び中東欧と2の大河で結ばれている。“黄金のライン”と“青きドナウ”である。

スイスアルプスに端を発し、ボーデン湖を通って北海に向うライン川を挟

http://www.iti.or.jp/

んでドイツは、経済圏を形成している。ライン河沿いのドイツ西部、ベネルクス、フランス東部、スイスそして英仏海峡を越えた英国南東部の一帯は「バナナ・ブルー」と呼ばれている欧州産業の心臓部である。

他方で、ドイツは、黄金のライン川に対比される青きドナウ川の源流国でもある[注6]。ドナウ川はドイツ南西部を優雅に流れた後、ウィーン、プラチスラバ、ブタペストを経てクロアチアとセルビアの国境を成して、ベオグラードを経由してルーマニアとブルガリアの国境を成して、モルドヴァ、ウクライナを経て黒海に注いでいる。黒海を下ればトルコのイスタンブールに辿り着く。全長約 2850km、流域面積約 81万 5000㎢の欧州第2位の大河である。これらドナウ川流域国の人口は、トルコ（EUとは関税同盟を結んでいる）を含めると1億8000万人を超え、これにポーランドやチェコを含めると2億人を超す。中東欧は、一人当たりGDPはEU平均の半分程度等、潜在成長力は大きい。

EU東方拡大によって欧州の経済圏は変容している。すでにEU域内貿易のけん引役は、ドイツと中東欧が担っている。欧州経済の成長地域は中東欧にシフトしている。中国が一帯一路構想で中東欧を果敢に攻めているのも、欧州における中東欧の潜在成長力と地政学的な重要性を認識しているためである[注7]。

欧州の命運はライン川の両岸で起きていることで決まるというのが通説であるという。フランス大統領にエマニュエル・マクロン氏が就任したことで、独仏枢軸を原動力として欧州統合が新たな段階に突入する準備が整ったという期待感が高まっている。しかし、「欧州将来白書」（2017年3月）によれば、欧州結合の選択肢には、「単一市場のみ」に縮小する案も出ている。

ドイツは、ユーロ通貨圏であるライン経済圏と非ユーロ経済圏であるドナウ経済圏の両方に強固な基盤を築いている。中長期的には、ドイツ経済はドナウ経済圏との関係を深めるのではないか。

http://www.iti.or.jp/

表 10　ライン経済圏とドナウ経済圏

（単位：10 億ドル、100 万人、%）

国名	ユーロエリア	名目GDP		人口		輸出			輸入			対ドイツシェア			
								伸び率			伸び率	輸出		輸入	
		2000	2015	2015	2022	2000	2015	*	2000	2015	*	2000	2015	2000	2015
EU域内		**8,914**	**16,326**	**507**	**514**	**2,449**	**5,386**	**5.4**	**2,511**	**5,238**	**5.0**	**13.7**	**13.0**	**14.0**	**14.3**
ドイツ	*	1,956	3,365	82	83	550	1,326	6.0	495	1,051	5.1	-	-	-	-
フランス	*	1,372	2,420	64	66	327	506	3.0	338	573	3.6	15.6	15.8	18.6	19.4
ベネルクス	*	674	1,263	29	30	429	984	5.7	406	911	5.5	22.2	21.3	16.6	14.1
英国		1,639	2,863	65	68	285	460	3.2	347	626	4.0	11.9	10.1	12.2	14.8
北欧	*1	550	1,029	21	22	184	295	3.2	152	284	4.2	13.5	13.4	17.3	18.4
バルト3	*	25	91	6	6	9	50	12.5	13	57	10.6	13.1	6.8	13.3	11.3
アイルランド	*	100	283	5	5	77	124	3.2	51	76	2.8	11.2	6.5	6.0	9.1
南欧		**2,007**	**3,443**	**130**	**129**	**394**	**828**	**5.1**	**474**	**849**	**4.0**	**14.4**	**11.6**	**16.2**	**14.5**
イタリア	*	1,145	1,826	61	61	240	457	4.4	238	411	3.7	15.2	12.3	17.6	15.5
スペイン	*	597	1,194	46	46	115	282	6.2	156	312	4.7	12.3	10.9	15.4	14.4
ポルトガル	*	119	199	10	10	24	55	5.6	40	67	3.5	18.0	11.8	13.7	12.9
ギリシャ	*	132	195	11	11	12	29	6.2	33	48	2.5	13.7	7.3	14.2	10.8
マルタ	*	4	10	0	0	2	3	0.4	3	6	3.6	9.6	13.3	8.2	6.8
キプロス	*	10	20	1	1	0	2	10.8	3	6	4.0	6.9	1.8	7.5	7.5
中・東欧		**590**	**1,568**	**106**	**105**	**196**	**814**	**10.0**	**235**	**809**	**8.6**	**32.6**	**26.6**	**30.2**	**27.8**
ポーランド		171	477	38	38	32	199	13.1	49	196	9.7	34.9	27.1	23.9	27.7
チェコ		61	185	11	11	29	158	12.0	32	141	10.5	40.5	32.2	32.7	29.9
スロベニア	*	20	43	2	2	9	32	9.0	10	30	7.5	27.2	19.1	19.0	16.5
ドナウ川沿岸国		652	1,850	184	188	169	621	9.0	213	686	8.1	26.4	19.7	26.1	21.7
オーストリア	*	197	377	9	9	67	153	5.6	72	156	5.3	33.3	29.4	43.8	41.5
スロバキア	*	21	87	5	5	12	75	13.2	13	73	12.4	26.9	22.4	25.2	19.3
クロアチア		22	49	4	4	4	13	7.4	8	21	6.6	14.3	11.2	16.4	15.5
ハンガリー		47	122	10	10	28	99	8.7	32	92	7.3	37.3	28.0	25.6	26.0
ブルガリア		13	50	7	7	5	25	11.7	7	29	10.5	9.0	12.7	13.9	12.9
ルーマニア		37	178	20	19	10	61	12.5	13	70	11.8	15.7	19.7	14.7	19.9
セルビア		9	37	7	7	-	13	-	-	-	-	-	12.6	-	-
トルコ		273	859	79	85	28	144	11.6	55	207	9.3	18.6	9.3	13.2	39.2
ウクライナ		32	91	43	42	15	38	6.6	14	38	6.8	5.1	3.5	8.1	10.4

注：1. セルビア、トルコ、ウクライナは、中・東欧には含まない。
　　2. ユーロエリアは、19 か国（北欧はフィンランドのみ）
資料：GDP・人口：IMF:World Economic Outlook Database, April 2017
　　輸出・輸入：IMF; Direction of Trade Statistics (DOT)

参考文献

川野祐司（2016）「ヨーロッパ経済とユーロ」文眞堂
日本銀行（1992）「ドイツ統一コス トと最近の欧州問題について」
月刊海外市場（1977）「ドイツの貿易黒字還流の構造を探る」ジェトロ
通商白書 2012 年版
濱田和章（2017）「マッキンダ―の地政学的視点から見た現代東アジア」ITI コラム

注

1　WSJ「マクロン氏のユーロ改革、劇的な万能薬はなし」（2017 年 5 月 19 日）
2　通商白書 2012 年版
3　海外市場（1977）
4　WSJ「マクロン氏の欧州構想、懐疑的なドイツの壁」（2017 年 5 月 8 日）
5　WSJ「トランプ氏、ドイツ貿易黒字批判だけは正論」（2017 年 6 月 1 日）
6　シュヴァルツヴァルト地方の町ドナウエッシンゲンの公園に、ここよりドナウが始まるといわれている「ドナウの泉」がある。
7　「マッキンダ―の地政学」によれば、「東欧を支配する者はハートランドを制し、ハートランドを支配する者は世界島を制し、世界島を支配する者は世界を制する」

http://www.iti.or.jp/